



平成二十三年度村政運営の所信

東通村長 越善靖夫

礼申し上げます。

去る3月11日に発生した、東北地方太平洋沖大地震と大津波は、後世に永く伝えられるような大震災となりました。被災された村民を始め、多くの被災者に対して、心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の災害となり、被災者のお気持ちには想像を絶するものと思えますが、一日も早く復旧が進み、日々の生活が送れる状態となりますよう、強く念願いたします。

さて、我が村は、東通村基本構想に掲げる、「みんなで創ろう住みよい村づくり」を理念に、「力ある産業を培い、良好な環境を育み、そのもとで快適な生活を営み、独自の文化を創り、これらをもって内外の交流を拓き、村を活

性化する」を基本とし、原子力発電所との共生をもって、やすらぎのある長寿社会、次世代を担う人づくり、良好な環境のもとでの快適な生活向上を目指す。各施策を進めて参りました。この間、皆様の絶大なるご支援により、着実に行政を進めることができました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

さて、東通原子力発電所東北電力1号機が営業運転をしてから、事業者のご努力により、これまで、安全に安定した運転を続けております。こうしたことから、これまで、13ヶ月以内に一度定期点検が義務づけられていたものを、国の新検査制度により、運転期間が延長できることとなり、事業者は所定の手続きを進めていると伺っており

ます。事業者に対しては、引き続き安全には細心の注意をもって運転を続けて頂きたいと存じます。

ところで、東京電力1号機は、国による安全審査のため、本格着工が先延ばしされておりましたが、昨年末に国の許可もされ、いよいよ本格的な工事が進められることとなりました。将来に希望を抱く村民の強い期待を受け、原子力発電所との共生を図りながら、単独での行政運営を進め、更なる発展に向け、各種基盤整備を進めて

いる我が村としては、極めて厳しい行財政環境が続いている中においては、再び先延ばしされることのないよう、国、事業者に対して強く要請してきたものであり、これにつきましても、皆様のこれまでのご支援に対して厚くお

東通村は、農林水産業の振興と、下水道などの生活環境改善をはじめとした生活基盤の整備充実にとり組んでおり、また、教育環境の整備等の重要課題に取り組んでおります。既に小学校・中学校は1校に統合を果たし、いよいよ、本年は、24年4月の保幼園開設に向け、園舎の建築に取りかかりま

す。この幼児施設の完成により、教育環境デザインに基づく、幼・小・中の一貫教育の実質的なスタートができるものであります。今後とも、あらゆる角度からの教育環境の充実に努めて参ります。

また、産業基盤の整備にあたっては、村製品の販売促進について、建物の設計及び産地直接販売施設の具体的な計画作りを進めておりましたが、本年はいよいよ施設の建設に取りかかりま

す。

更には、自然環境の保全、生活環境の維持などを含む広い観点からの環境対策についての具体的な「環境デザイン」も検討委員会の審議をもとに、答申がされました。

この他にも、住民の安心安全の観点